

平成 24 年度 第 2 回 「健康くるめ 21」 計画推進協議会 議事録

日 時：平成 25 年 1 月 21 日（月）19 時 00 分～20 時 50 分

会 場：市役所 3 階 305 会議室

出席者：松石委員、日高委員、大石委員、友安委員、満園委員、西田委員、三隅委員、道井委員、野田委員、
宮本委員、戸田委員、吉田委員、木下委員、吉田委員、大塚委員、松田委員、竹下委員、柄本委員、
行徳委員

欠席者：荻野委員

【配布資料】

資料① 久留米市健康に関するアンケート調査報告書

資料② 「健康くるめ 21」（健康づくり計画）最終評価報告書（案）

資料③ 第 2 期健康くるめ 21 計画【素案】（平成 25～34 年度）

【議事】

1. 開会

○事務局

定刻になりましたので、これより平成 24 年度第 2 回「健康くるめ 21」計画推進協議会を始めさせていただきます。会長に進行をお任せする前に、事務局からお詫びとご連絡を申し上げます。今回の会議でございますが、本来ですと、1 回目にご案内しておりましたが、昨年の 9 月末頃の開催予定でご案内させていただいておりました。皆様に議論いただきましたアンケート調査の項目や内容の精査、集計のとりまとめに時間を要しましたことなどにより、今回このような時期となってしまいました。深くお詫び申し上げます。今回、（事前に送付いたしました）次第にてすでにご連絡差し上げておりますが、アンケート調査の結果とそれに基づく最終評価、ならびに第 2 期計画の素案をまとめて議論いただくかたちにさせていただいております。短時間でございますが、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

後ほど、それぞれご説明いたしますが、事前に送付しました資料について、お時間ある方は見ていただいたかと思いますが、修正等もありますので、それぞれ担当からご案内したいと思います。

本日の会議でございますが、野田委員が 30 分ほど遅れられるということと、荻野委員がご欠席ということで承っております。定刻になっておりますので、会長に進行をお願いしたいと思います。会長よろしく願いいたします。

○会長

皆様、こんばんは。非常に寒い中、また足元の悪い中お集まりいただき、ありがとうございます。去年は大学から歩いてきて、健康くるめ 21 の成果というのをお話したのですが、今回は迷いましたが、車で来ました。代わりに 1 階～3 階まで 2 往復しまして、1 回お会いした方が、（私が）来ないから心配されたかもしれませんが。この協議会に来ると、非常に健康への意識が高まります。それでは早速、議題に入ります。

ただいまから、平成 24 年度第 2 回「健康くるめ 21」計画推進協議会を開催いたします。本日の会議は 9 月に市が実施しました健康に関する調査の結果報告、現行計画の最終評価、そして次期計画の素案が主な内容となっております。これより事務局からそれぞれ説明がありますが、どうぞご活発なご意見いただきますようお願いいたします。

では、議題に入ります前に、本日の協議会の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○事務局

本日の傍聴希望者はいらっしゃいません。

○会長

傍聴希望者はいらっしゃらないということです。

2：議題

(1) 久留米市健康に関するアンケート調査報告について

○会長

それでは、次第に沿いまして、議題1の「久留米市健康に関するアンケート調査報告」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

事務局健康推進課の清水と申します。私からご説明いたします。

～中略（資料1説明）～

○会長

ありがとうございました。膨大なデータをまとめていただけていますが、有効回収率が49.8%ということで概ね、市の現状を反映しているものと思われま。それでは、議題1についてご意見、ご質問ある方は遠慮なくお願いします。

運動も1日30分以上、週2回以上しているという人が多いのが印象的です。なかなかできないことだと思いますが。男性と女性で肥満の年齢が違っていたりするのも、男性は40歳代が高くて、女性は60歳代が高くなっているの、面白い結果が出ていると思います。あまり症状がでないような高血圧等、症状がでない方は何もしていないといったところもあるので、(運動など、体を意識的に動かすことなどの啓発の)徹底が必要なのかと思います。

○A委員

中身を見せていただいて、いろいろと感じたことなのですが、まず、6Pの最後のほうにも総括としてありましたけれども、若い女性のやせ傾向が多いことを最終的にも分析されていましてけれども、肥満の方の対策ということがあっても、若い女性の対策というのは今までなされていたのかなというところが一つ考えとしてあります。運動指導をしている立場から言えば、若い女性はそれ以上やせなくてもいいのではないかというくらいやせようとするのですが、やせることイコール美しいことという観念があるんですね。脂肪でやせようが、筋肉でやせようがどちらでもいいのです。脂肪でやせればまだいいのですが、筋肉でやせるとその後の人生をすごく不幸なものにしてしまうということをご存知なくて、子どもを産む上でも、その後育てる上でもすごく大変になるということを理解されていないので、そういったところを今後何らかの取り組みをされるといいのかと思いました。

もう一つが12Pの栄養食生活の朝食の摂取について、すごく不思議に思ったのが、BMI別に見たときに肥満の方が一番朝食を食べていらっしゃいます。高齢者の方であったのが、30品目食べないといけない、いろんな情報があって、あれもこれも食べないといけなくなるとなって結果として食事の量が増えてしまう。それと、3食必

ず朝食を食べなければいけないという観念があって、朝食食べてしまって、栄養を取らなければならないということで太ってしまっているといったことがありますので、そういった点の指導の仕方を少し工夫が必要なのかなと感じました。

次に、ストレスのところ、29Pの睡眠不足の原因では、仕事またはストレスが1位、2位ということなのですが、その後、32Pのストレスの原因が仕事、人間関係になっています。29Pでは睡眠不足の原因ということで、仕事とストレスと分けていますが、結局、仕事がストレスの原因で大きいということが見えています。これを見て、すごく思ったことは仕事でストレスがないことはありませんと思います。仕事でストレスを受けているということはその受け止め方に、強烈な言い方ですが、問題があるのではないかと思います。考え方の転換というか、少し違った観点で考えるということを考え方のレクチャー、イベント等を行うといいのかなと思いました。実際に私はうつで1年半ひきこもっていたことがあるのですが、そのときに仕事の面ですごく受け止めすぎてしまって、結局それで自爆してしまったというふうに自分の中では分析しているのですが、そのときにちょっとした考え方、最近のスポーツ理論の中で、フロー理論というのがあるのですが、感情の決定経路は本人にある、自分にある、どういう結果を責め隠しても、その感情をいいほうに受け止めるか、悪いほうに受け止めるかは自分にあるというようなことが書いてありました。アウシュビッツの捕虜の収容所の方が、最後まで希望を捨てずにいきいきと生きていらっしゃった方がいるなどの話を参考に持ってこられていましたが、どういうふうに受け止めるかはテクニックであり、訓練であると思います。そういったことをその当時の私が知っていたら良かったということを感じます。

48Pの生活習慣の改善の必要性、最初のほうにもありましたが、運動することが必要だと、運動しない理由として、忙しくて時間がないと、こちらの生活習慣についても改善が必要だと思うが、今すぐに変えようとは思わないというところがあるのですが、結局時間がないというのは誰でも一緒です。時間がないということが理由でフィットネスジムをやめる方は非常に多いです。運動をなぜしなければいけないのかというところを少し考える機会を与えてあげるとよいのではないかと思います。最近よく思うのですが、運動するというのはどういうことかというのを突き詰めて考えた時に、どういう死に方をしたいのかが選択できるということなのではないかと思います。最終的にチューブにつながれ、おむつをあてられ、保育園児のように扱われたいのか、最後まで人間の尊厳を保ったまま死んでいきたいのかというようなところを考える機会が必要なのではないかと思います。健康運動実践指導士の勉強をする上で、健康日本21の最初の序文のところ、健康は目的ではなく手段、何の手段かということ、それぞれの人間が自己実現をするための手段であるということが書かれています。健康ということが目的になってしまって、眉間にしわを寄せてすごくきつい運動をされている方がジムにもいらっしゃるのですが、運動のためなら死んでもいいと、全く発想が違うんですね。何のために健康を手に入れたいのか、自分の人生を全うするためなんですよ。そういった考え方を展開していきなり、広めていきなりすると、仕事が忙しいからという言い訳をして、自分の体を省みない人たちに、何らかの印象を与えることができるのではないかと思います。

53Pのロコモティブシンドロームについて、他の病気、慢性腎臓病などの認知度と比べて認知度が少なく、内容までよく知らないという方が多いのはものすごく恐ろしい話だと思いました。高齢者の方にもよくいらっしゃるのですが、やせていたら健康と思っていられ方が多いです。高齢者でやせているということは筋力がないんですね。本当に立てなくなってしまうのですが、それでも私はおなかが出ているからというような理由でやせたい、やせたいという話をされます。標準体重をきっていてもそれでもやせたいという固定観念をもっていられ方が非常に多いです。やせイコール健康、やせイコール美しいといったことではなくて、実際に最後まで自分の足でトイレに行くためには筋肉をきっちりつくっていかないといけないのだということ、この認知度を上げていくことがすごく大事なのではないかと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。非常に重要なポイントを話していただきました。20代、30代女性の2割以上がやせになっているのは、私達も日常の中で感じています。私の病棟に3人程摂食障害の方がいて、骨粗鬆症と同じような状態になっていて、これは一生の問題で、先ほどありましたが、子どもさんに発達障害が多いのも女性の葉酸不足や偏った栄養状態が関係であるのではないとも言われています。赤ちゃんの体重自体が2,800gくらいと小さくなりました。私達の時代は、男の子は3,200g、女の子は3,100gでした。第1子が非常に小さくなって、産科のほうでも一時期太りすぎてはいけなと、それはまちがった指導であるということで、日本でも一般的になっています。それだけではなく、社会自体がファッション雑誌等、それがあたたかもいいことであるかようになっていきます。実際、MRIをとると、脳が委縮したような状態になっていたりする、この時期女性ホルモンが十分でないのは一生の問題になるということ、そういったことをご指摘いただいたのだと思います。

肥満とBMI、食べる事についての意識も正しく理解してもらう必要があります。

ストレスの問題、ストレスと仕事については現代社会においては、日本全体との関係もありますが、ストレスの多い方は睡眠障害や睡眠不足になってしまいます。適度なストレスは重要といわれていますが、それをどう理解して、どう発散して、どう付き合っ少なくていくかと、収容所の中でも非常にポジティブだったということもあるように、小さい頃からの学習が影響しているかと思えます。

ロコモティブシンドロームについて、メタボリックシンドロームは認知度がだいぶ上がっていますが、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病（CKD）も非常に大きな問題になっています。ロコモティブシンドロームは国民病ではないとも言われていますが、そのことによって寝たきりになるということもあります。この健康くるめ21（の取り組み）も生活習慣病に対する予防の段階に入ってきているので、そのような中で、どうしたらよいかという提言をいただいたのではないかと思います。

ストレス社会ですから、自分でいろいろなことを乗り切る必要がありますが、そういったことは教育されていないので、相談するところもないし、袋小路に入っていく場合もありますが、立派に克服された体験を基にお話いただいたと思います。非常に重要な提言だったかと思えます。

○B委員

先ほどの若い女性や生活改善の必要性も問題ですが、一番問題なのは、64Pの健康くるめ21の認知度が低いことです。外来の患者さんに聞いても「旅の番組ですか？」と言われるような状態です。認知度を上げていないことが一番怠慢だと思います。メディアや雑誌では内容が入っていますが、内容が入った時に健康日本21を知らないで、偏った内容や間違った内容になっています。健康くるめ21の認知度を上げる方法をしっかり考えてほしいです。整形外科という立場では、ロコモ認知度が低いのも悲しいことですが、市役所に健康くるめ21という大きな立て看板をしたらどうでしょうか。やせの認知、食べすぎの認知、高齢者のやせの認知ができていないのは健康くるめ21って何なのという人が多いからだと思えます。今回せつかく新しくなるので、このあたりを変えられるといいなと思えます。

○会長

非常に重要な点だと思います。15.7%の認知度ですからキャンペーンをしたり、ロコモって何？等、市役所に貼ってあったりしても効果的かもしれません。

○事務局

先ほど言われた認知度については、我々もいろいろところで健康教育等やって努力しております。見ていただいたら分かるように高齢者の方には少しずつ浸透してきたのですが、1番情報が届きにくい、我々が一番ター

ゲットにしたいと考えているところが非常に低いような状況で、そのあたりについては、次期計画でも対象者の方々にアプローチすることが重要なところかと思っております。

○会長

ホームページやインターネットを若い人たちは見るでしょうから、市政だよりは私は見ますが、若い人たちはあまり見ないでしょうから、このあたりの認知度は問題ですね。田中麗奈さんや藤井フミヤさんを雇って、地元から出た人達に還元していただくなど、いろいろ検討したらいいのではないですか。皆さんアイデアはあると思います。お金をかけずに認知度を上げる方法を検討したらよいのでは。市役所に看板等も目立ちそうですね。ロコモや COPD をどのくらい知っているかですよね。いろいろとありがとうございました。他いかがでしょうか。

認知度を上げる方法についてはパブリックコメント等もありますし、ご検討いただいたらよいかと思えます。市役所のホームページには健康くるめ 21 はわかりやすく載っていますか。

○事務局

ホームページには載せていますが、魅力的かどうかはわかりませんが、情報については発信しているところでございます。

○会長

これは国民の医療費がかさむと経済が大変なことになるということで、皆さんいきいきと暮らすことが大事ですから、ここは非常に大事なところかもしれません。

○B 委員

かなり民間に個人としては投資してあるんですよね。ただそれが、ちぐはぐになっていたりするので、それは我々がやっていくことなのかなという気がします。

○会長

時間の関係もありますので、後でまた意見があればお願いします。それでは、議題 2 の現行計画の最終評価(案)について、事務局の説明をお願いします。

(2) 現行計画の最終評価案について

○事務局

事務局健康推進課の轟です。最終評価案について、私からご説明いたします。

～中略(資料2 説明)～

○C 委員

23P の「8020 運度」の部分で「3~4%台と低迷しています。」となっていますが、健康推進課としての対策はどうでしょうか。

○事務局

健康推進課において「8020」の検診ということで、10 歳刻みで検診を実施しているところでございます。これについても、個別に受診を案内し、その後も個別の受診勧奨を行うかたちにしてはおりますが、それでもやや低

いようでございます。今後、これについては取り組みを進めていく必要があるかと思いますが、一方で、先ほどのアンケート調査の結果を見ていただきますと、5割程度は受けていらっしゃるということで、検診と受けていらっしゃる所の相関を整理する必要があるのかと思っています。

○D 委員

質問ですが、10Pの数字ですが、今のところ微増ではあるが、満足ということですが、この点数は何点満点ですか。

○事務局

こちらは6点満点になっております。

○E 委員

運動、食、休養とありますが、これを横断的につなげての対策は考えないのですか。分析も縦割になっていますが、基本的には運動、食、休養はセットで考えないといけない。個人レベルで、ある程度のコミュニティで考えるときに、運動だけ、食だけ、休養だけということではなくて、これはセットで考えないと、例えば適度な運動は肥満の元ですから、要するにバランスをきっちりおさえて、今後の方針ということ考えるべきではないかなと思います。ウォーキングのところは、うちと市でやらせてもらっているところなのですが、ウォーキングの講座も来られる方はすごく熱心です。ただ、課長さんもお存知のように受講生は減っています。来られた方は満足度が高い、このミスマッチは一体何なのかということなのですが。例えば、体育スポーツ課も体協（体育協会）のスポーツ養成講座をやっています。これもなぜか久留米市は受講生が少ないです。ここが個人的にすごく不思議でしょうがないです。そこでこれを見せてもらった時に先ほど改善していると、個人的に自分が現場で実感しているものと違い、本当かと感じました。少なくとも、せっかくこれだけのことをやっていただいたので、個人でできるレベルのことを考えるときには、結果として病院にお世話になったり、病気になったりするの仕方がないが、その前の段階で考えれば、運動と食、または栄養それと休養は、メンタリティの問題も体もある程度は反映するはずですが。基本的にはセットで考えて、どこに軸を置くかで分析の仕方が違ってはくるのですが、それを踏まえて今後の方針を出して、久留米市自体が現場でそれぞれに、私が接点があるのはこちらと体育スポーツ課ですが、その情報が反映されていく、例えば今見直しをやっていますが、少しも横を見ないと、まずいと思います。少なくとも向こうもこれに近い形でアンケートはしていませんが、施策として打ち出しているわけですから、そのところの重なるべきところをつくる部分をぜひしてほしいと思います。

○事務局

委員がおっしゃった通りだと思っています。先ほど分析の部分も少しお話をさせていただいたのですが、今回どのような軸で切るかというのは致し方ない部分もありまして、先ほどお話をさせていただいた通り、30代、40代の方々にどうアプローチをかけていくのか、そのところで先ほど言われた運動であり、栄養であり、休養のところをミックスしましたと言いますか、取り組みを啓発していく必要があるのかとは思っております。

ただ、如何せんそれを行ってしまいますと、今度は年代別で切り分けるようになってしまうので、計画上は申し訳ないのですが、項目別での切り分けをさせていただいているところがございます。その部分を合わせてそういう世代の方にどういったアプローチをしていくか、皆様方のご意見を伺いながら我々としても考えていく必要があると考えています。

○A 委員

先ほどのウォーキングの件で一つ、高知に行った時に面白い事例があったのですが、それはわらじを履いて坂本竜馬が脱藩した道をウォーキングするというイベントでした。これは、私は個人的に参加してみたいなと思いました。運動指導をする立場からすると、わらじを履くというのは足の指を使うのですが、今の人達は足の指をあまり使えていなくて足の障害を抱えている方が非常に多いので、そういう啓発にもつながるかと思います。歩くことが目的ではなく、それプラスアルファの何かを追加したようなイベントにすると、久留米にちなんだ歴史好きの方がそういうイベントに来られるようになるといった取り組みがあるのかなと思います。もう一つが先ほど言われていた中高年、20代、30代を取り込みたいという話だったのですが、これは何も練っていない単なるアイデアですが、20代、30代の方が一番何が心配なのかといったら財テク、金の心配、老後の心配などがありますが、踏み台運動をしながらそういう講座をする等、今のは案ですが、何かをミックスしてやるのも面白いかと個人的な意見ですが思いました。

○会長

文化センターと有馬記念館で金閣、銀閣等そういったことや、先ほど言われていたのは大事な点で、運動だけ、食事だけ、というよりも年代別と言いますか、お互いに影響し合っていますので、これが20代では一番大きくてこれに引っ張られて動いているということもありますので、先ほど縦割という言葉がありましたが、これだけを見ていると全体像がつかみにくいかなと思います。非常に重要な指摘だったと思います。その点は今後検討されたらいかがでしょうか。それから20代以上ということになっていますから、例えばこの年代ではこれが重要だといった年代別の分析も、お互いの因子が関連しているの、そういった時代になっているという指摘だと思いますが、専門家がおられますから、そういった分析をするとより鮮明にわかってくるかもしれません。それぞれの相互の因子がですね。しかし、非常に短い中でよくまとめていただいていると思います。他にいかがですか。

○F 委員

質問です。10Pの内容ですが、健康づくり対策、子育て支援対策は大きな括りですが、具体的な項目があって、それをまとめたものでしょうか。こういう大きな括りで質問されたのでしょうか。そのことと、アンケートの結果を踏まえて次の計画が立てられていると思いますので、そこでわかるのでしょうか。

○事務局

満足度の出し方については、市民意識調査の中はかなり細かく入っているのですが、そこで、満足、やや満足、やや不満、不満かを点数化したような状況で、すべての人を平均化したものがここに出てきているものです。

○F 委員

私が聞きたいのは、具体的な対策がここにいくつもあったのかどうか、調査を受けた人が具体的な対策がわかってこの点数なのかどうかということです。

○事務局

健康づくり対策について、満足かといった聞き方になっています。

○F 委員

子育て支援でもいろいろあるので、これではよかったけど、これではといったことがあるのかと思ったもので。

○事務局

これは全体傾向ということでこういった形になっております。

○会長

それでは次に議題3 「第2期健康くるめ21計画」素案について、事務局ご説明をお願いします。

(3)「第2期健康くるめ21計画」素案について

○事務局

事務局健康推進課の千代田です。「第2期健康くるめ21計画」素案について私からご説明いたします。

～中略（資料3説明）～

○会長

ありがとうございました。議題3について、ご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

○OG委員

健康くるめ21とは関係ないかと思いますが、老人の孤独死というのがよく出てきます。今、いきいきサロンというのを各校区でやっています。健康推進課の職員さんにもよく来てもらっていますが、高齢者の健康について、75歳以上の独居老人の方へ健康の指導があります。今後、計画は計画として、健康推進の取り組みとして考えておいてほしいということで参考までに申し上げた次第です。

○OB委員

関連して、健康ファシリテーターをつくろうとして、まだ機能していないかと思うのですが、受け取るだけでなく自分が言うことで自分自身が健康になるということもありますので、ファシリテーターをもう少し推進していただけるとよいと思います。生きがいの問題もあって、患者さんに私がよくお願いすると、患者さんが元気になります。そういったこともありますので、ぜひ推進していただけたらと思います。

○会長

貴重なご意見ありがとうございます。

○OA委員

お年寄りの健康寿命を高めるということで、健康であったとしてもお年寄りがよく言われるのが行くところがない、することがないということでずっとテレビをみていらっしゃって、筋力が落ちてしまって動けなくなってしまうということをよく耳にします。生きがいというキーワードを何か一つ取り組みとして対応していただければと個人的な意見ですが思います。私の義理の父が93歳ですが、昨年まで車を運転していました。車を運転できなくなってしまって、体がガタリと弱ってしまって、今は介護を受けているのですが、介護のお兄さんがきて、体操してほめられることがうれしいと言っています。92歳まで介護を受けなかったということ自体が拍手したくらい素晴らしいことで、介護している83歳の母もまだ介護を受けずに頑張っています。そういう介護を受けていない人を表彰するといった取り組みをあってもよいのではと思います。本で読んだのですが、寝たきりのいる国、いない国、寝たきり老人という言葉すらない国があると聞いたことがあります。そういうところという

のは、お年寄りの方も社会に参加しやすい国だと思います。そういう何かしらの取り組みができると、久留米市の新総合計画、最初に出てきた健康で生きがいがあるまちというところに近づける一つの取り組みになるんじゃないかなと思います。

○H 委員

私も民生委員をしているのですが、今おっしゃったように高齢者の健康づくりとしては生きがいづくりだと思います。社会参加が大切だと思います。今できる仕事に取り組んでみようという意欲、地域のボランティア活動をいろいろやってみる、同じ趣味を持って楽しく集まりましょうといったような具体的なことを考えております。

○事務局

非常に重要な視点でお話をうかがっているところでございます。ただ、今回の健康くるめ 21 計画につきましては、高齢者の方については、高齢者福祉計画がございまして、そこで取り組むようなかたちで今整理させていただいておりますので、今回の分ではその分が薄くなりまして、高齢者になる前の方々にどう健康づくり、寝たきりにならない等の状況にもっていくかということで整理をさせていただいております。ですので、その視点についてはこの中に入っていない状況ですが、非常に重要な視点だと思いますので、我々もそういう視点を持って高齢者の方についても対応していきたいと考えているところです。

○E 委員

40P の真ん中の部分ですが、健康づくりの場と言うのは具体的にどこを指しているのですか。

○事務局

アンケートに関しては、地域で行われるウォーキング、体操への参加の意欲のところ為主でございまして、これと併せて NPO 等に関わりながらそういう人たちを支えていきたいということも入っている状況でございます。中身として一緒に聞いているところもあるので、その振り分けはできていない状況です。

○E 委員

基本的な考え方としまして、健康づくりの場を使うことを考えておられるわけですよね？コミュニティで皆様が集まる場所を使いたいということですよね。そうすると、ご存知だと思いますが、久留米では総合型の地域スポーツクラブをボトムアップで、規模は小さいのですが、県が行うものに、うまく久留米市が言い方は適切でないかもしれませんがのっかっていて、全国的には総合型地域スポーツクラブを文科省にしても、体協にしてもトップダウンでやろうとしていますから、補助金というのははっきりいって邪魔をしています。ところが久留米市の場合は、それを歴史が古いなかで私が見る中でうまく行政と一緒にやってきている状態があります。総合型の地域スポーツクラブの理念をご存知のようにあらゆる人たちを対象にする、老若男女、障害者も含めて、昨年度から総合型地域スポーツクラブは障害者の方たちも受け入れる活動を県の事業としてやっています。そういったところも地域の人たちにこういったところも使えますよということをアナウンスするということはぜひやっていただきたいし、それも含めてこの中にあるべきかと思います。

併せて、先ほどから話もありましたけれども、運動やスポーツは何かシンボルがあったほうがいいのですが、久留米市にはありません。強いて言えば、先ほどのウォーキングの話でいえば、つつじマーチが全国区です。それを行政がきっちりインターフェースとなって支えていくということを健康の部分でもぜひやってほしいと思います。あれも、月星が最初社長の理念でできたイベントですが、もう全国区になっています。ところがあのイベントもマネジメントするという意味では後継者がいません。ですから、全国の認可がおりなくなる可能

性があるということです。すると、今あるシンボルはなくなってしまう可能性があります。それはすごくもったいないことで、すでにそういう時期にきていますので、そこも久留米市全体が考えてほしいと思います。

○事務局

それにつきましては、26Pの身体活動と運動というところで、7番のところに主な取り組みとしてあげさせていただいているところでございます。運動スポーツ事業との連携、推進ということで、先ほど委員が言われたように、総合型地域スポーツクラブにつきましても、育成普及等いろいろされておりますので、そことタイアップしながら関わりの中でご紹介等もしていきたいと考えております。

○会長

男性の自殺率、30代から65歳まで男女差があることにすごくびっくりしたのですが、このあたりの分析はいかがでしょうか。

○事務局

この表には入れていませんが、ストレスとの関係でいいますと、女性のほうがストレスが高い傾向がございます。同じところにストレス解消法をあなたはもっていますかという聞き方をしているのですが、それは極端に男性が少なくなっています。男性は、20代はわりと持ってありますが、年齢が上がるごとにほとんど少なくなります。それと我々がやっているアンケートではないのですが、地域との関わり、人との関わりが男性はかなり少なくなっているような状況でありまして、それに経済的な問題等が重なると男性のほうが多い状況になります。相談相手がないということ、経済面を背負っているということもあるのかもしれませんが、そういったところで自殺が多いのではないかと、本当の分析ではありませんが、データを見るとそのようなことが言えるのではないかと考えています。

そうならないための相談機関の問題、相談の敷居を低くする、周りの方々の目というような点を育成するような自殺予防については重要なところだと考えています。

○会長

女性のほうが会話して、情報を共有したり上手なのでしょうね。

○A委員

運動教室していても中年男性はいらっしゃらないんですね。いらっしゃっても恥ずかしがられるので、知らない人の中に入るというのがやりにくいんですね。運動指導する人たちは皆、女性しか来ないねと話します。

○事務局

それと社会的に、男性のほうが慣れが少ないのかなといった点があります。地域のことに関わりながら地域とやってくというのが、60歳までは仕事中心で、そういった狭い空間が自分の世界ということになりますので。

○B委員

基本計画の中で男女共同参画のところがあります。役割別のところが差が大きすぎて、男は仕事、女は家庭となると、家庭につながっているところは、地域のいわゆる井戸端会議で、仕事の中での人間のネットワークは切れやすいということもあるので。

○D 委員

今おっしゃっていたことと反対のこともあります。何かというと、私は（久留米市校区まちづくり連絡協議会の）代表で来ていますが、現状で会長は全員男性です。女性は一人もいません。以前、公民館と自治会と2本立てだったところは自治会長に女性がいました。ところが今はまず出てきません。できるだけ女性の方をお願いしますといっても難しい。校区の会長さんですら、女性のほうが少なくなっています。そういう反対の現象もあります。だからそういう皆さんの会合には女性が多くて男性が出てこないかもしれないが、頭には男性がなるというそういったジレンマもあります。

先ほど話にあがった、健康くるめ21を知っている、知らないという問題について、知らない人が多いという、このPRについてですが、このような提案はどうでしょうか。

昔、今もやっているのかはわかりませんが、人権のまち久留米と大きな標語を立てた看板がありましたでしょう。ああいった大きな標語を立てるのはどうでしょうか。もう一つ考えているのは、4月からいよいよ北野地域が（久留米市校区まちづくり連絡協議会に）参加するようになって、いよいよ46校区が本当に歩き出すことになって、各校区のコミセンに垂れ幕を下げるようにしたらいかがですか。市民一人ひとりの輝く都市 久留米健康で生きがいを持てるまちというのを垂れ幕でつけると非常に目につきますから、これは何ですかといったときに、そこから会話が生まれて何をしているかがわかるということができないのではないかと思います。

○事務局

委員が言われたように、いかに健康である、健康くるめの主旨を伝えていくのは非常に重要な事だと思いますので、我々としても検討しながら、一人ひとりがそれを受けて動いていただくような久留米市にしたいと思っておりますので、ここにお集まりの委員さんには個別にお願いすることもあるかもしれませんが、その際はよろしく申し上げます。

○F 委員

5つの基本方針がどれにそっているのか教えてほしいのですが。4つ目が個人の健康を支える環境の整備となっております。

それと、42Pと43Pの保健センターは（旧）4町なのですか。

○事務局

（旧）4町と南部です。地域保健センターについては、城島のげんきかん、北野コスモすまいる北野、1月に先日オープンした田主丸の保健センター、三潞が旧町時代から持っていました三潞保健センター、4月にオープン予定の南部保健センター、これは上津市民センターの西側に今準備しています。中央はまだない状態です。

○F 委員

保健センターは介護や福祉行政との効率的・効果的な推進等を図る、複合施設としての整備とうたっておりますが、名称はやはり保健センターで、保健福祉センターとはならないのでしょうか。

○事務局

保健機能を担うという意味で今、そこには保健センターと書いておりますが、実際に機能が集まった一つの建物となったときに、その建物を何と呼ぶかはまだ調整できておりません。

○F 委員

保健福祉センターとなると、先ほど介護や孤独死の話もありましたが、福祉とつくほうがよいかと思えます。そのために税金を払っているわけではないですが、安全安心で暮らせる街を望みますので、福祉が入るとよいのかとずっと思っていました。他の自治体では保健福祉センターをずっとつくられてきていますよね。せつかくこのようなものがあるのであればそのようにしてほしいなという要望です。

○事務局

1 点目については 5 項目でなく、4 項目の間違いです。すみません。ありがとうございます。

○事務局

保健福祉センターについては、そのセンターとしての機能を十分に果たしているかどうかは別にしまして、城島のセンターが久留米市城島保健福祉センター、北野コスモすまいるには建物の中に地域包括支援センターが入っています。今回の田主丸、南部上津こちらにも包括支援センターが同じ建物の中に入っておりますし、南部はフロアまで同じというスタイルをとることにしています。

○会長

ありがとうございます。非常にたくさんの建設的な議論をしていただきました。その他何かございますか。なければ、事務局よりございますか。

○事務局

長時間に渡り、建設的なご議論ありがとうございました。短時間でご説明を差し上げました。本来であれば、回を分けてご説明すべき内容をまとめてご説明したところもごございますので、別紙で FAX 用紙をお渡ししているかと思えます。今回時間の関係で、見きれていないところもあって、見ていただいてご意見ございましたら、事務局までご意見いただければと思います。短時間で申し訳ございませんが、今週木曜日までに FAX、もしくは郵送の封筒お渡しいたしますので、事務局宛てに送っていただければと思います。

○事務局

追加で申し訳ございません。電話でも結構ですので、何かございましたら事務局までご連絡いただければと思います。

○事務局

その旨、一番下に載せさせていただいております。電子メールのアドレスもいれておりますので、一番やりやすい方法でけっこうでございますので、よろしく願いいたします。

最後に、今後のスケジュールだけお伝えさせていただきますと、今日の会議も踏まえまして、1 月 30 日～2 月 28 日の予定でパブリックコメントをさせていただく予定にしております。広く一般市民の方のご意見をいただきまして、2 月の 24 日（日）を予定しておりますが、市民説明会を開催したいと思っております。こちらについては別途ご連絡差し上げたいと思っておりますが、そのような関係で市民の方からご意見寄せていただいたものを踏まえまして、3 月上旬から中旬くらいを目途にもう一度皆様にお集まりいただいて、素案を案という形で整理させていただいたものをご提示できればと思っております。事前送付に極力努めたいと思っておりますので、ご協力よろしく願いいたします。最終的には、3 月末に計画を取りまとめたいと考えております。よろしく願いいたします。

○事務局

追加ですが、先ほどご説明させていただきましたパブリックコメントと、市民説明会ですが、委員の皆様の中でここは代表ということできていただいています、各会員さんどなたでもけっこうですので、市民説明会に出てきていただくなり、パブリックコメントで意見を出していただくなり、ぜひ会員の皆様にもご協力いただきたいと思っておりますのでぜひよろしく願いいたします。

○会長

長時間にわたり、活発な建設的なご議論ありがとうございました。非常に勉強になりました。それでは、本日の平成24年度第2回「健康くるめ21」計画推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。